

4-1-11 放射線診療部

4-1-11-1 放射線診断科（画像診断）

1. 概要および特色

1.1 24時間放射線診断業務

放射線診療部放射線診断科では全ての画像診断（循環器科の心臓超音波検査および心臓カテーテル検査、産科の超音波検査を除く）を放射線科医が担当し、責任をもって読影報告書を作成し、検査結果を各診療科へお返ししている。また、各診療科とのカンファレンスを放射線診療部内にある画像カンファレンスルームで行なっており、画像診断の診療側からのフィードバックが行なわれるような体制を取っている（表）。当直時の画像診断は超音波診断、単純写真からCT検査まで常時行なっておりリアルタイムに救急診療のサポート体制を取っており、翌朝救急センターで画像カンファレンスを行なっている。また、ICUとNICUへは毎日正午頃に画像診断医が出向いて画像カンファレンスを行っている。

1.2 院内カンファレンス

院内カンファレンス

月曜	総合診療部カンファレンス
	胎児カンファレンス
火曜	外科カンファレンス
水曜	整形外科カンファレンス（隔週早朝）
	救急カンファレンス
木曜	泌尿器カンファレンス（早朝）
	神経カンファレンス
	呼吸器カンファレンス
	腫瘍カンファレンス（隔週）
金曜	循環器カンファレンス
毎日	救急センター、ICU、NICU カンファレンス

1.3 院外カンファレンス

月1回程度開催される院外でのカンファレンスに、放射線診療部から数多く参加している。

主な院外カンファレンス

小児放射線診断勉強会	首都圏の小児画像診断に携わる放射線科医による症例検討会。月1回開催。
小田急カンファレンス	主に神奈川県（小田急沿線）の大学病院等の放射線科医師による症例検討会。月1回開催。
こまばイメージング研究会	城南地区の中核病院等の医師による画像診断症例検討会。年3-4回開催。

2. 診療活動、研究活動、研修活動など

2.1 放射線診断

全ての放射線画像診断（超音波検査、核医学検査を含む）を臨床各科の協力により放射線科医が施行し、その画像に対して放射線科医による読影レポートを作成している。スタッフ8名、レジデント1名でこれに当たっているが、ナショナルセンターの責務として小児放射線診断医を育成することを負っているためにレジデント枠は7名となっている。このことは、同時にその責務の重さを肝に銘じ、与えられた業務（すなわち患者様ならびに担当チームの各医師に役立つ画像診断情報の提供）の遂行を放射線診療部の最重要目標としている。

放射線診断科スタッフ

職名	氏名	専門医など
医長	野坂 俊介	放射線科専門医
	岡田 良行	放射線科専門医
医員	宮崎 治	放射線科専門医
	北村 正幸	放射線科専門医
	堤 義之	放射線科専門医、日本小児科学会専門医
	宮坂 実木子	放射線科専門医
	鹿島 恭子	日本小児科学会専門医
	大楠 郁子	日本小児科学会専門医
レジデント	岡本 礼子	

今年度の画像診断業務として行った患者数は 59,947 人であり、単純写真においては診断報告書が 15 分以内に主治医の元に届くように読影専任医を置いている。また、日々の読影業務終了後、スタッフ全員によるレビューを行い、診断チェックと同時に情報の共有化を図り、どのモダリティの担当になっても各患者の情報が把握できるようにしている。

診断業務	人数
単純写真	27,475
ポータブル写真	15,099
透視・造影検査	2,014
CT	4,246
MRI	3,090
血管造影および IVR	36
手術室イメージ	387
超音波診断	4,943
超音波下穿刺術	78
骨塩定量	517
他施設画像診断	2,062
総計	59,947

2.2 核医学診断

核医学診断業務は放射線診断業務の一部と考えている。成人領域の病院において年少児への検査では眠剤投与で鎮静が行われているが、当センターでは患児に液晶テレビで好きなアニメーションを見せることで、鎮静なしで検査を行っている。このことにより、より生理的な環境下での検査が行われていることになる。

核医学検査スタッフ

職名	氏名	専門医など
診療部長	正木 英一	放射線科専門医、日本放射線腫瘍学認定医
医員	北村 正幸	放射線科専門医

核医学診断業務	件数
中枢神経系	144
循環器	22
呼吸器	78
内分泌器（甲状腺）	10
消化器	55
骨・関節・軟部	51
尿路・生殖器	305
腫瘍・炎症	49
その他	2
総計	716

2.3 研究活動

平成 16 年度に助成を受けた研究課題

- 1) 正木英一：研究課題「成育医療における放射線医療の標準化」(平成 17 年度厚生労働省成育医療研究委託事業)
- 2) 宮寄治：分担研究課題「小児における CT 診断の適応と被曝低減に関する研究」(平成 17 年度厚生労働省成育医療研究委託事業「成育医療における放射線医療の標準化」)
- 3) 岡田良行：分担研究課題「ティーチングファイルシステム構築に関する研究」(平成 17 年度厚生労働省成育医療研究委託事業「成育医療における放射線医療の標準化」)
- 4) 北村正幸：分担研究課題「小児放射線診療におけるネットワーク構築に関する研究」(平成 17 年度厚生労働省成育医療研究委託事業「成育医療における放射線医療の標準化」)
- 5) 鹿島恭子：分担研究課題「成育医療における胎児画像診断の適切な活用に関する研究」(平成 17 年度政策医療ネットワーク共同研究 研究課題名：胎児治療および小児外科疾患治療標準化のためのガイドライン作成に関する研究)

2.4 研修受入

院内・院外からの長期・短期の研修を随時受け入れ、小児画像診断についての研修教育活動にも積極的に取り組んでいる。平成 17 年度の研修受け入れは以下の通りである。

依頼施設	研修期間	人数
日本医科大学小児科	1 ヶ月	1 名
東京医療センター研修医	1 ヶ月	3 名
国立成育医療センター総合診療部レジデント	1 ヶ月～2 ヶ月	4 名
国立成育医療センター周産期診療部レジデント	2 ヶ月	1 名
自治医科大学臨床検査部	週 1 日	1 名
みさと健和病院小児科	週 1 日	1 名
みやた小児科	週 1 日	1 名
東京臨海病院小児科	週 1 日 (8 ヶ月)	1 名
埼玉社会保険病院小児科	週 1 日 (5 ヶ月)	1 名

2.5 研究員受入

共同研究関連の無給研究員を随時受け入れている。平成 17 年度の状況は以下の通りである。

共同研究関連院外研究員	期間	人数
無給研究員（放射線技師）	12 ヶ月	1 名
無給研究員（医師以外）	12 ヶ月	3 名

2.6 研修活動

海外からの専門家を招聘しての小児放射線診断に関する講演を行なった。

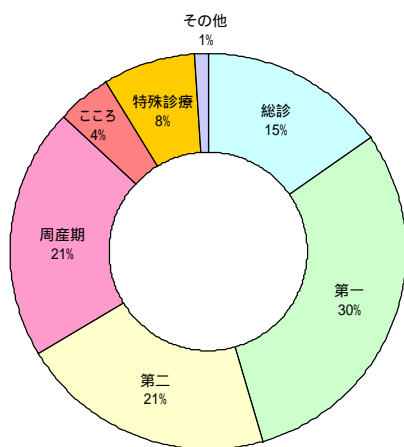
Racadio J,MD (Department of Radiology, Cincinnati Children's hospital): Pediatric 3D Rotational Angiography (Vascular and Non-Vascular Application) . 平成 17 年 6 月 22 日 (水)

3. 業務評価 (2005 年放射線診療部院内アンケート結果抜粋)

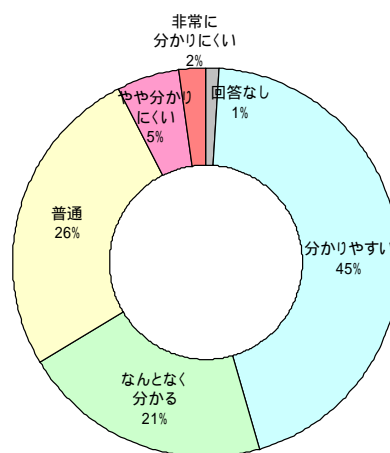
開院後 4 年を迎え昨年に引き続き、院内医師を対象に放射線診療部の業務評価を目的とした院内アンケートを実施した。抜粋を以下に掲載する。

2006 年 3 月末実施

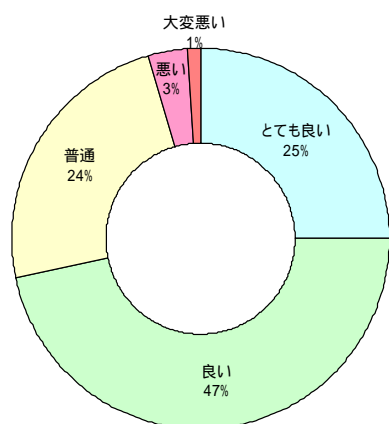
Q1. 所属について



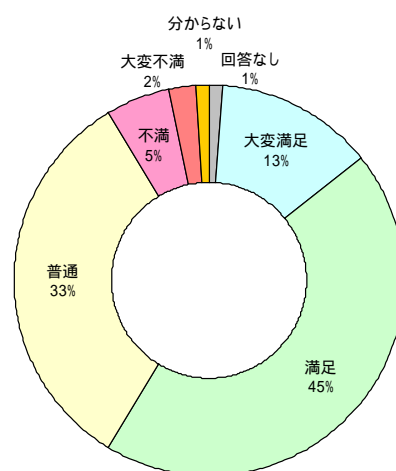
Q5. オーダーの出し方はわかりやすいですか？



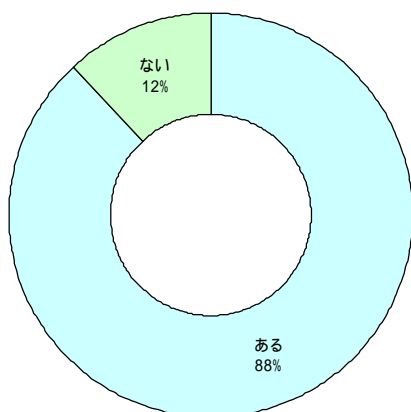
Q7. フィルムレスは良いと思われませんか？



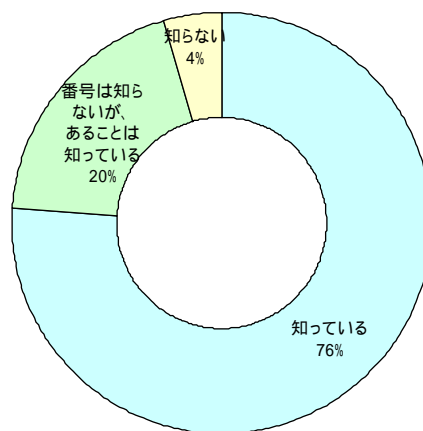
Q9. フィルムレスシステムについて、当院の運用全般をどう思われますか？



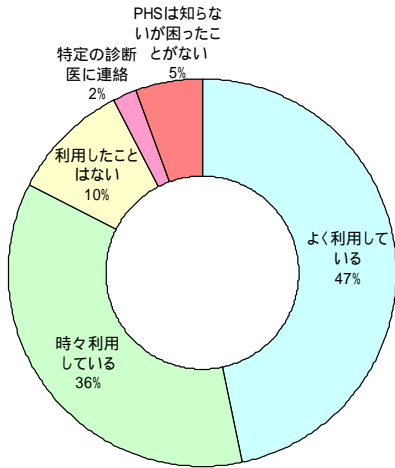
Q11. 検査選択等に関して放射線医師に相談された事がありますか？



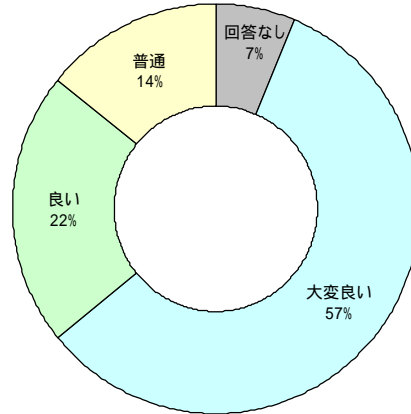
Q12. 緊急担当の放射線技師・医師のPHS番号(7193・7190)をご存じですか？



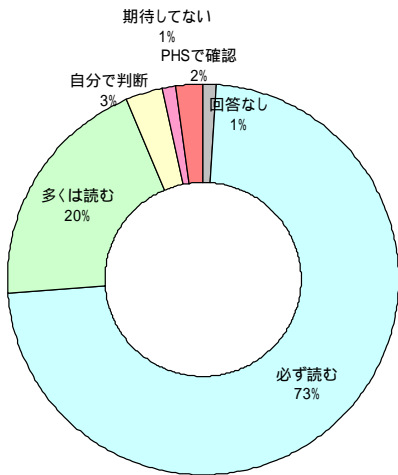
Q13. 緊急担当放射線科医師 PHS (7190) を利用されていますか？
(一般撮影を除く)



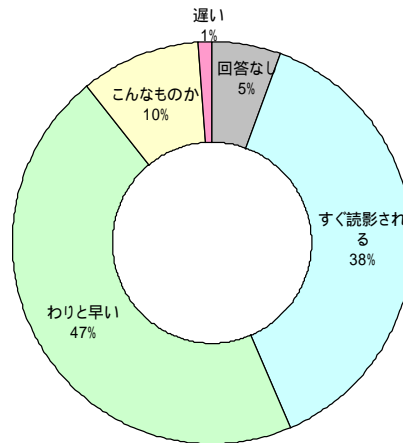
Q14. 緊急 PHS での放射線科スタッフの対応はいかがですか？



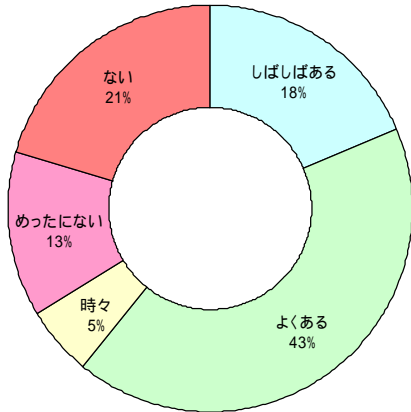
Q17. 至急読影の報告書を読んでいますか？



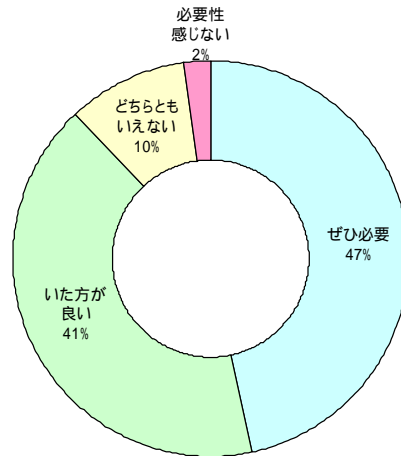
Q18. 至急読影は機能していると思いますか？



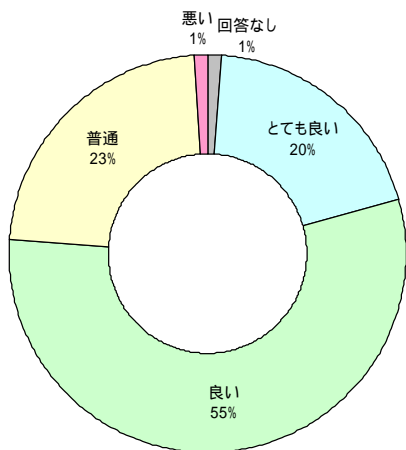
Q19. 診断医当直に連絡したことがありますか？



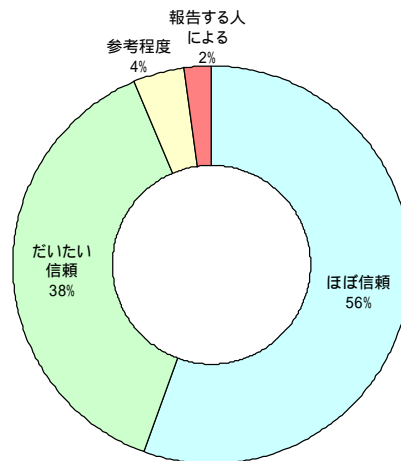
Q20. 診断医当直は必要ですか？



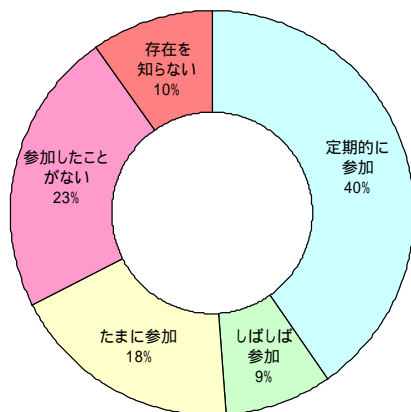
Q27. 報告書の表示は見やすいですか？



Q35. 報告書の内容について



Q36. 放射線科医の参加するカンファレンスについて



Q39. PACS端末は診察室に必要ですか？

